

分科会	創造活動の基礎・基本	学年	4年
提案者	長野原町立中央小学校 剣持 由美子		



テーマ 基礎・基本としての鑑賞の指導について

1 はじめに

学習指導要領の共通事項として中学年では、「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して「自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること。」「形や色などの感じを基に、自分のイメージを持つこと。」という項目が加わった。表現と鑑賞の関わりをいっそう重視した指導が求められている。

子ども達は「不思議な物」「おもしろいこと」が好きである。そういうものを見るうちに次々と想像力も高まってくる。いろいろな言葉をつぶやき、話し合うようになる。中学年という時期は思ったことを実際の形にしようとする意欲も高まる時期である。また、この時期の子ども達は小集団で活動することが多くなっていく。気の合う友達と言葉を通じて様々な関わりを求めるようになっていく。よさやちがいに気付いたり、認め合ったりすることもできるようになっていく。友達との関わりから見つけたことを、自分の作品に生かすこともできるようになっていくのである。本題材を通して表現と鑑賞のつながりを再発見し、自分のイメージを膨らます楽しさを味わわせたい。

2 実践の概要

(1) 題材の内容

本題材は、身近な環境からそこに合ったオリジナルのキャラクター（学校の住人）を想像することの楽しさを味わう活動である。自分がイメージした住人を制作し、その住人が住んでいる様子を写真に撮ってお互いに見せ合い、その面白さを感じ取る。グループのメンバーでいろいろな会話を交わすことは、想像力を膨らまし、具体的な住人の形をイメージするのに役立つだろう。そこから更にいろいろな想像力を膨らますこともできるであろう。イメージした住人を制作していく中でもどのような場所に置か、どのような物語を作るかなど、思いを持続した活動ができると考えられる。

(2) 目標及び評価基準

①目標

身近な場所から、そこにいそうな「住人」を思いつき、住人が住んでいる様子を写真に撮ってお互いに見せ合い、おもしろさを感じる。

②評価規準

<関心・意欲・態度>

学校に住むすてきな住人を考えて粘土で形にし、場所との組み合わせを楽しもうとしている。

<発想や構想の能力>

身近な場所の雰囲気から、そこにいる住人がどのような形や色をしているか考えている。

<創造的な技能>

粘土の特徴を生かして、形や色を工夫している。

<観賞の能力>

場所の雰囲気から、どんな形や色の住人を考えたのかを話し合い、よさや面白さを感じ取っている

(3) 学習計画<全8時間計画>

①学校内の様々な場所に隠れている住人を探す活動を通して、身近な環境から想像する活動に興味を持つ。(1時間)

②アイデアスケッチをもとに油粘土で試し作りをする。(1時間)

③試し作りをもとに紙粘土で作品を作る。(1時間)

④作品に彩色し、ニスをかける。(2時間)

⑤作った住人を気に入った場所に置いて、写真を撮る。(2時間)

⑥写真を選び、プリントアウトする。住人のプロフィールを書く。(1時間)

(4) 授業の実際

学習活動	支援及び留意点	児童の様子
○学校の住人を探し、身近な環境から想像する活動に興	○班ごとに住人を捜し、置き場所の位置を変えたりしながら	○いろいろな場所に置き換え、楽しんで。「ここがいいよ。」

<p>味を持つ。</p> <p>○学校内の様々な場所に隠れていそうな住人を想像し、アイデアスケッチをする。</p>	<p>想像する楽しみを味わう。</p> <p>○スケッチをメモ的なものにし気楽に描けるようにした。</p>	<p>などと言葉を交わす場面が多く見られた。</p> <p>○実際ある物の形にとらわれてしまう児童も見られた。</p>
<p>○アイデアスケッチをもとに、油粘土で制作する。</p>	<p>○アイデアスケッチの中から気に入ったものを選んで、それを形にしていくようにする。</p> <p>○試し作りなので、いろいろ試すようにさせる。</p>	<p>○何を作るかわからない児童は見られなかったが、絵には描いたが立体にならずに方向転換をする児童は見られた。</p> <p>○平面で表現した物を平面のまま形にする児童も何人か見られた</p>
<p>○試し作りをもとに、紙粘土で制作する。</p>	<p>○油粘土との違いを説明し、材料に親しみながら制作させる。</p> <p>○紙粘土が乾燥してしまうことが一番の違いなので、そこを注意して制作を進めるようにさせる。</p>	<p>○紙粘土の感触を味わいながら真剣に作業が進められた。油粘土で試し作りをしたので、スムーズに立体にすることができた。</p> <p>○制作中は会話を交わすことなく淡々と進めることができた。</p>
<p>○作品に彩色し、ニス を 塗る。</p>	<p>○濃い色から薄い色を塗って行くようにさせる。</p> <p>○紙に塗るよりも濃い色を塗るようにさせる。</p>	<p>○どこにおくか（草の中、石の上など）具体的なイメージを膨らませて色を選んでいた。</p>
<p>○住人を気に入った場所に置き撮影する。</p>	<p>○グループで場所を選び、アドバイスしながら撮影をする。</p>	<p>○デジタルカメラの使い方をすぐに覚えて意欲的に撮影することができた。</p>
<p>○撮った写真の中から好きな写真を選び、プリントアウトする。住人のプロフィールを書く。</p>	<p>○PCの使い方を説明し、グループのメンバーで教え合いながら気に入った写真をプリントアウトする。</p>	<p>○PCの使い方ををすぐに覚え、プリントアウトすることができた。</p> <p>○題材のめあてをきちんととらえてプロフィールが書けた。</p>

3 おわりに

アイデアスケッチから始まり、いろいろに形が変わっていく子ども達の「思い」のを感じることができた。初めに学習の課程を見せ、自分の思いをどのように進めていくかイメージを持たせた。デジカメ写真の作品を鑑賞することが大きな目標だが、制作の途中でも友だちと言葉を交わしたり、作品を見合う中で、いろいろな思いが形に変わることを学べたと思う。

最後の撮影時間は、グループでの活動にしたが、中には別の場所で撮りたいとイメージを膨らませていたので、個人でも活動させればよかったと思った。

作品はとっておいたので、風景の様子が変わった秋にまた撮影会をしたいと考えている。次回は作った作品に合うキャラクターを増やしたり、小物を付け加えたりと、発展的な活動が考えられる。

撮影会の前に写真撮影のポイントについて、写真のお好きな校長先生からお話をいただいた。風景を入れて撮影することはなかなか難しいようだったが外での活動は楽しそうだった。スケッチや粘土での制作が苦手な児童も撮影には意欲を示していた。写真作品とプロフィールを廊下に展示し、他学年の児童にも見てもらうようにした。いろいろな人から感想が聞けることと思う。本校は夏休み作品展があるので、保護者にも見てもらうことができる。

制作や撮影になると真剣になり、会話は少なくなった。撮影のレイアウトをする時や写真をプリントアウトする時には楽しそうに会話する様子が見られた。全時間を通して自分の思いを深め、友達の思い認めながら学習できたと思う。

分科会	創造活動の基礎・基本	学年	2年
提案者	中之条町立中之条中学校	荒木 孝史	

テーマ **グループ活動による試行体験が材料・素材との
かかわりを深めることへの効果について**

1 はじめに

自分の思いや考えを形にしていくためには、創造へのビジョン（見通し）をもつことが必要になる。このビジョンが明確になるほどに、表現活動は豊かで充実したものになると考えられる。

創造へのビジョンをもつには、制作の目的をつかみ、その目的を達成するための具体策を模索することが必要となる。そして、発想した具体策が実際に有効な手段であるか、その実現性を確認することにより、より強固なビジョンをもつことができるようになる。

制作の目的を達成するために、具体策を模索しながら実現性を確認していく力を身に付けることは、創造的な活動を進めていく上で欠かせないことであり、発想や構想するための基本的な能力と言えるだろう。そこで、この一連の力を活用し身に付けていくために、美術科の授業に「グループ活動による試行体験」を取り入れることを提案する。

2 実践の概要

(1) 題材名 「心を潤す光を演出する～ランプシェードの制作～」(A 表現：デザイン・工芸の表現)

(2) 題材の内容

本題材では、ランプとランプシェードを使い光を演出することを制作の主題とし、合わせてランプシェード本体を美しくあるいは丈夫につくることをめざし学習を進めた。

□どのように材料・素材にかかわらせるか

[グループ活動による試行体験]

光との出会い：生徒が制作に使用できる4種類のランプ（光源）を用意する。

材料の例示：教師からの例題として、安価で身近に手に入る物を試行体験の材料として用意する。

試行錯誤の経験：グループで材料検討をし、アイデアをまとめ、試作品を制作する。

交流：意見を交換しあい、作業を分担し制作する。

□材料・素材とのかかわりを発想・構想へ

生徒は、グループで試作品をつくり光の演出を試みることにより、材料・素材の特徴をつかんだり、自分のイメージに合う材料を見つけたりすることにつながっていった。

そして、この体験をもとに、個人の制作に向けてアイデアを練りながら、自分が演出に使うランプを選び、身の回りからイメージにあった材料を見つけ出し、光の演出に向けた制作活動を進めた。

光の演出が制作の主題であることから、全校に向け発表会を催し、学校のオープンスペースを使い実際に光の演出を楽しみ学習を終えた。

(3) グループ活動による試行体験の効果

グループ活動による試行体験の効果について、生徒の作品制作後の自己評価をもとに確かめた。

□材料・素材とのかかわりについて見ると

「使い方や作り方が分かった。」「光の強さや光の漏れ方が分かった。」「材料を試すことでアイデアが広がった。」「紙は光が透ける。」「材料の役割が分かった。」「イメージがもてるようになった。」など、試行体験によって制作への見通しが広がり、例示された材料とのかかわりを深めることができたことが見て取れる。

□グループで活動することで

「自分の考えと違う見方ができた。」「考えつかない使い方、作り方が分かった。」「話し合うことで

アイデアが思い付いた。イメージができた。」「(体験で出た)アイデアを使ってみた。」「みんなで材料(和紙)にこだわった。」など、グループの中で刺激しあうことにより、材料・素材とのかかわりがより深まり、制作への見通しがもてたことが見て取れる。

□負の評価として

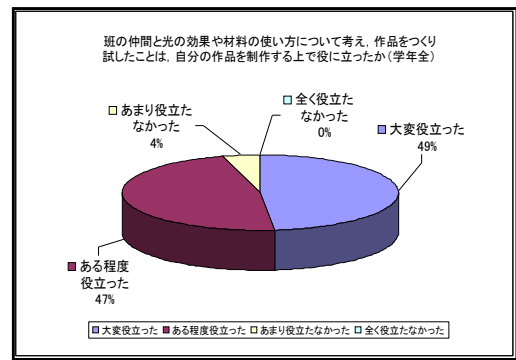
「自分がつくる形と違う。」「材料を上手く使えない。」「みんなで考えたことをまったくやらない。」など、自分の制作には生かせないととらえられる評価が見られた。(4%)

多くの生徒がグループによる試行体験の効果を認めていることが分かる。ただ一部には、グループでの体験が自分の制作に結び付かないととらえている生徒も見られた。(グラフ1参照)

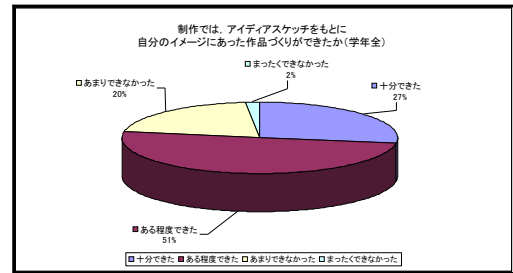
(4)個人の制作について

最後に、グループによる試行体験を経験した生徒が個人の制作でどのような取組ができたかについて、再び生徒の自己評価を基に見てみたい。

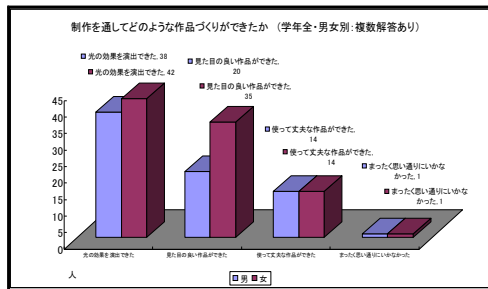
約8割の生徒は、自分のイメージに近い作品づくりができたかと感じている。一方でまったくできなかったと感じている生徒も2%見られた。(グラフ2参照)



グラフ1



グラフ2

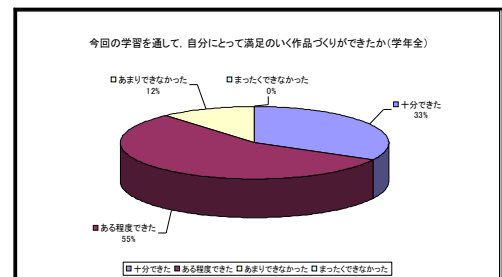


グラフ3

次に、どのような作品づくりができたか、制作の目的に照らして確認したところ、調査113名中80名(約7割)が光の効果を演出できたと答えている。見た目の良さについては、男子20名、女子35名ができたと解答しており、比較的男女の差が大きくなった。また、2名の生徒がまったく思い通りにいかなかったと答えている。(グラフ3参照)

9割近い生徒がおおよそ満足いく制作ができたと感じており(グラフ4参照)前に示した調査項目の数値と照らし合わせると、8割前後の生徒は、制作の目的に向かって見通しをもって作品づくりができたのではないかと考えられる。

満足いく作品づくりができない原因として、イメージにあった作品づくりができていないことが考えられる。



グラフ4

3 成果と課題

(1)成果

○グループ活動による試行体験は、材料・素材とのかかわりを深める上で効果がある。

特に、グループでの体験が生徒個々の実態や課題に対して効果を上げている点に注目したい。

- ・材料の使い方や作り方を試したい、考えたい。
- ・材料の特徴や性質について試したい、知りたい。
- ・材料の使い方や作り方を知りたい。
- ・アイデア(発想・構想)を広げたい。など、生徒個々の疑問や求めに答えることができた。

(2)課題

○グループ活動の場合、個人の制作に必要なあるいは求める試行(試作)体験ができるとは限らない。

従って、グループ活動による試行体験に加え、[①アイデアを練る→②試行(試作)する→③アイデアを修正する→④本制作]といった生徒個々が自分の課題に応じて試行できる展開を意識した学習計画の必要性がより高まるだろう。

4 備考

(1)本題材の目標及び評価規準

＜目 標＞ ○光の演出についてイメージをふくらませながら、アイディアスケッチを基に制作の構想を練り、使う人や見る人の心を潤すランプシェードをつくる。

＜評価規準＞

造形活動への 関心・意欲・態度	使う人や見る人の心が潤うような光を演出することに関心を示し、自分の主題を明らかにしながら制作を進めていこうとする意欲がもて、学習から得たものを生活の場に生かそうとする態度が見られる。
発想・構想 する能力	制作の目的や間接照明の特徴を踏まえて、自分が表現したい光の演出について作品づくりのアイディアや作品を使ったときのイメージを図や言葉で表すことができる。
創造的な技能	光源や材料の特徴、使ったときの効果について確かめたことを基に、自分のイメージに合った材料や用具を選択し、材料の特性を生かした表現方法を工夫することができる。
鑑賞の能力	市販の照明器具を使った演出を体感したり、お互いの作品を見たり考えを伝え合ったりしながら、間接照明の光がもたらす美しさや作者の思いについて考えることができる。

(2)本題材における〔共通事項〕の指導についてのとらえ

〔共通事項〕(1)ーア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。

・市販の照明器具を使った光の演出や自分たちが制作した作品による光の演出を鑑賞し、演出を施した光の様子からどのようなことを感じたか、自分や周囲の人の感想を聞き比べてみることで、生徒は、光がもたらす効果や感情について確かめることができる。

・間接照明の特徴について理解するとともに、光の効果を引き出すことができる材料を選び、間接照明による光の演出を試みることで、生徒は、光や材料の性質についての理解を深めることができる。

〔共通事項〕(1)ーイ 形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。

・光源の扱い方によって現われる光の色合いや影の様子などの違いを比べることで、生徒は、形や色合いが変わることで、同じ光源であっても印象が変わることに着目することができる。

・光源と材料の組合せ方によって変化する光の色合いや影の様子について確かめてみることで、生徒は、自分がつくりたいランプシェードのイメージをつかむことができる。

(3)本題材でグループによる試行体験を実施したときの板書計画

<p>心を潤す光を演出するーランプシェードの制作ー</p> <p>課題 用意された光源や材料から、どのような光を演出することができるだろうか？</p> <p>目標 光源や材料の違いや使い方により、光がどのように透けたり、漏れたり、反射したりするか、光の効果を確かめることができる。</p>	<p>【間接照明の特徴】</p> <p><input type="checkbox"/>光源を直接見せない使い方が多い。</p> <p><input type="checkbox"/>光が透ける、漏れる、反射するといった方法で柔らかな光の効果を演出している。</p> <p><input type="checkbox"/>壁や床、天井などに映った影を楽しむことも間接照明の特徴である。</p>
<p>【用意する光源】</p> <p>光源1番:「ランプ台」一般的な電球色の柔らかい光の効果が得られる。</p> <p>光源2番:「ゆらぎ灯」ロウソクの炎のような揺れる光を演出できる。</p> <p>光源3番:「LEDカラーライトベース」いくつかの色光が少しずつ変化し混じり合うことで幻想的な光を演出できる。主に反射を利用する光源。</p> <p>光源4番:「オーロラランプ」数種類の色光を選択できるほか、点滅しながら色が変化する効果が得られる。</p>	<p>◎ 光源や材料の使い方を考える</p> <p>◎ 効果を確かめながらグループで光の演出を試す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短い時間でできる簡単な仕組みを心がける ・確かめたことを記録する(記録係1名) <p>【記録の内容】</p> <p><input type="checkbox"/>どのような演出を試したか</p> <p><input type="checkbox"/>どの光源と材料を使ったか (光源番号、材料名、簡単な仕組み図)</p> <p><input type="checkbox"/>どのような光の効果が得られたか</p> <p><input type="checkbox"/>結果はイメージ通りか(メンバーの意見)</p>
	<p>◎ 確かめたことをふり返り、結果をまとめる</p>

(4)本題材の指導計画 (全10時間予定)

基礎・基本 の内容	主な学習活動	時間	評価項目 (評価方法)			
			造形活動への関心・意欲・態度	発想・構想する能力	創造的な技能	鑑賞の能力
A 表現 (2) -ア 目的や条件などを基に、美的感覚を働かせて形や色彩、図柄、材料、光などの組合せを簡潔にしたり、総合化したりするなどして構成や装飾を考え、表現の構想を練ること。 (2) -ウ 使用する者の気持ちや機能、夢や想像、造形的な美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練ること。 (3) -ア 材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現すること。	1 市販されている照明器具を使った光の演出について鑑賞し、光の扱い方や演出から感じられる効果について考える。 (鑑賞)	1	<input type="checkbox"/> 光を演出することで人の心をとどのように潤すことができるのか関心をもって課題に取り組もうとしている。 (活動の様子・ノート)	<input type="checkbox"/> 市販の器具を使って鑑賞したことを基に、間接照明の特徴を確かめることができる。 (発言・ノート)		<input type="checkbox"/> 市販の器具を使った光の演出を体感して、演出と心の関わりについて自分の考えが持てる。 (発言・ノート)
	2 今回の制作で使用できる光源と用意された材料を使い、グループで光の効果について確かめてみる。 (発想・構想)	1	<input type="checkbox"/> 用意された光源と材料からどのような光の効果を得ることができるかいくつかの可能性について考えようとしている。 (活動の様子・ノート)	<input type="checkbox"/> 材料の使い方を考えることができる。 (発言・ノート) <input type="checkbox"/> 試してみたい演出の方法を考えることができる。 (発言・ノート)	<input type="checkbox"/> 材料の組合せ方を工夫したり、材料に簡単な工作を施したりして光の演出ができる。 (活動の様子・作品)	<input type="checkbox"/> 試した演出の結果からわかったことや感じられたことを言葉に表すことができる。 (発言・ノート)
B 鑑賞 (1) -ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的と機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値観をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。 (1) -イ 美術作品などに取り入れられている自然のよさや、自然や身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎや共生などの視点から、生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解すること。	3 心を潤す光を演出するために、どのようなランプシェードをつくるかやつくった作品をどのように使うかを考えアイデアスケッチに表す。 (発想・構想)	7	<input type="checkbox"/> 人の心を潤すことのできるような光の演出ができるように、自分の主題を明らかにしながら制作していこうとしている。 (活動の様子・アイデアスケッチ)	<input type="checkbox"/> 光の効果を生かした作品と作品の使い方について、いくつかのアイデアを出して内容を検討できる。 (アイデアスケッチ)	<input type="checkbox"/> 作品の形や使い方について、自分のイメージを基にアイデアスケッチに表すことができる。 (アイデアスケッチ)	
	4 アイディアスケッチを基に材料を集め、ランプシェードをつくる。 (制作)		<input type="checkbox"/> 制作に必要な材料を用意し、光の効果を確認しながら、丈夫な作品づくりを進めるように心がけている。 (活動の様子・作品)	<input type="checkbox"/> アイデアスケッチを基に、作業の進み具合や変更点などの確認をしながら制作している。 (アイデアスケッチ)	<input type="checkbox"/> 材料の性質を考慮しながら、設置に耐えられる構造で、イメージに合う作品を制作できる。 (活動の様子・作品)	
	5 完成した作品や作品を使ったときのイメージ図などを使い、心を潤す光の演出についてのお互いの考えを発表し合う。 (鑑賞)	1	<input type="checkbox"/> 自分の考えが相手に良く伝わるように、イメージ図などを用意するなど、発表の内容や発表の仕方を工夫している。 (活動の様子・発言・ノート)			<input type="checkbox"/> 相手の作品を見たり、説明を聞いたりしながら、どんな雰囲気になるかをイメージし、感想がもてる。 (発言・ノート)